

株式会社 ニッキ

2016年3月期 決算説明会資料



～ガス燃料供給システムで環境へ貢献～

2016年5月20日

(証券コード6042・東証2部)

1. 会社概要
2. 2016年3月期決算と中期経営計画の進捗状況
3. 2017年3月期見通し
4. 参考資料

1. 会社概要

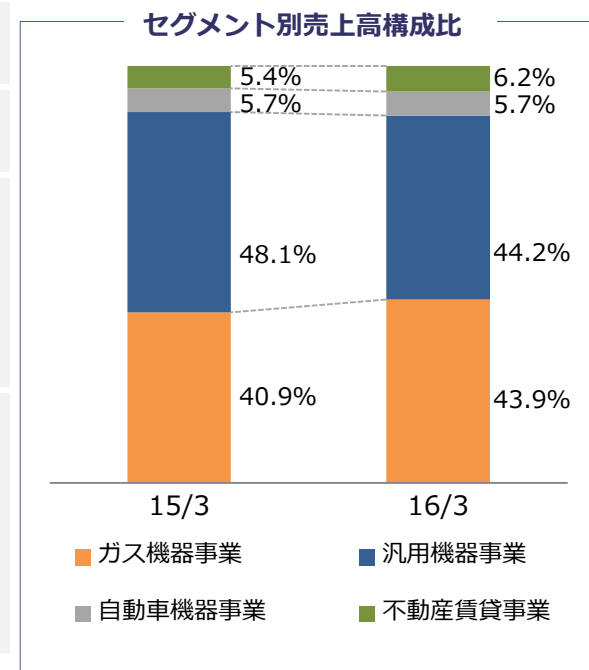
2. 2016年3月期決算と中期経営計画の進捗状況

3. 2017年3月期見通し

4. 参考資料

「ガス燃料供給システムで環境へ貢献」

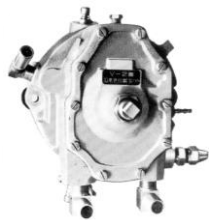
商号	株式会社ニッキ
所在地	神奈川県厚木市上依知3029番地
資本金	500百万円
代表者	取締役社長 和田 孝
設立	1932年2月
従業員数	583名（連結ベース、2016年3月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ LPG・CNG・LNG燃料供給システムの設計・開発及び関連機器の製造 ■ 船舶・小型エンジン用気化器及び燃料関連デバイスの設計・開発及び製造 ■ 自動車用燃料関連デバイスの設計・開発及び製造
関係会社	<ul style="list-style-type: none"> ■ NIKKI AMERICA FUEL SYSTEMS,LLC、NIKKI AMERICA,INC. ■ 瀋陽日新気化器有限公司 ■ NIKKI INDIA FUEL SYSTEMS PRIVATE LIMITED、 ■ NIKKI KOREA CO.,LTD.、NIKKI(THAILAND) CO.,LTD. ■ (株)ニッキ ソルテック サービス、ニッキ・テクノ(株)



伝統から革新へ



芝刈機用
U-22型キャブレタ



V3型
LPGペーパライザ



集約型
スロットルボディ



インジェクター

・1946年
自動車・農業エンジン
用気化器、燃料ポンプ
を開発

・1963年3月
自動車用LPGキャブ
レーション装置開発

・1982年
自動車用電子制御気
化器、自動車用ス
ロットルボディ開発

・1991年
圧縮天然ガス燃料
システム開発

・2006年
汎用電子制御噴射
システムの製造

・2014年
LNG用1段式
レギュレータ開発

・2009年
ガス用トップフィード
インジェクター開発

・1933年3月
自動車・航空機工
エンジン用気化器を開発

・1961年7月
本社工場完成

・1967年
厚木工場を建設

・1985年
船外機用気化器を
開発

・2001年
LPG電子制御気体
噴射システム開発

・2010年
CNG用1段式
レギュレータ開発

・1932年2月
創立

・1961年10月
東証2部に上場



第1号キャブレタ
NV-42



船外機用
キャブレタ



ECU



大型車用
CNGレギュレータ

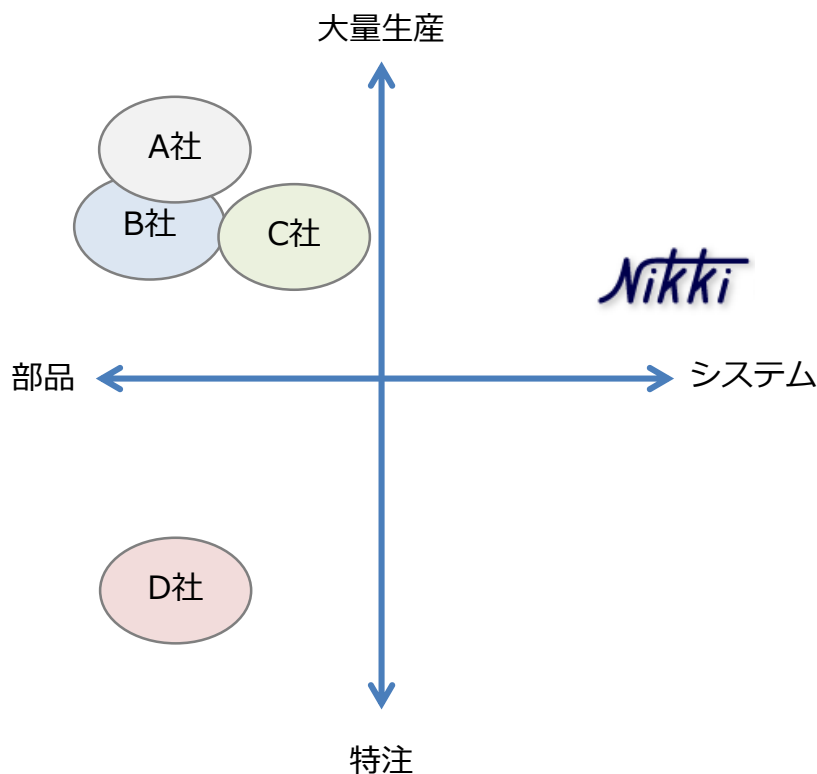
事業部門の構成と製品

事業セグメント	ガス機器事業	汎用機器事業	自動車機器事業	不動産賃貸事業
市場	東南アジアや東アジアへの輸出が中心。今後、北米、ロシア、インドネシア、中東等を開拓	米国向けが多く、芝刈り機・発電機用が約7割を占める。発電機需要の発掘を推進	東南アジア、中東への輸出	<ul style="list-style-type: none"> 東京都品川区にオフィスビルを所有
主要顧客	GM Korea、いすゞ自動車、日野自動車、広西玉柴機器、ユニキャリア	Briggs & Stratton Corporation、Kohler Company、川崎重工、富士重工、Cummins Power Generation	日産自動車、トヨタ自動車、マツダ、江西いすゞ	<ul style="list-style-type: none"> 安定収益
製品	<ul style="list-style-type: none"> 国内外のLPG・CNG車・フォークリフト向けの燃料供給システム（ECU、インジェクター、ベーパーライザ、レギュレータ、熱交換器、フィルター、ミキサ等） 	<ul style="list-style-type: none"> 汎用気化器（農業用、産業用）、船舶用気化器、二輪車向け噴射システム等 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外のガソリン車用のスロットルボディ、気化器、アクセルワイヤユニット等 	
生産拠点	日本、中国、タイ	インド、中国、米国、日本	日本	

当社の強み（1）

- ガス機器の燃料供給システムを構成する主要部品を全て製造可能
- 高出力・高精度性、燃費向上・排ガスクリーン化を実現する高い制御技術
- 様々な顧客要求にも対応可能な最新鋭の実験設備（開発アウトソーシングニーズへの対応）
- 系列に属さない独立系

ガス燃料供給システム（部品）会社ポジションマップ



当社の強み



当社の強み（2）

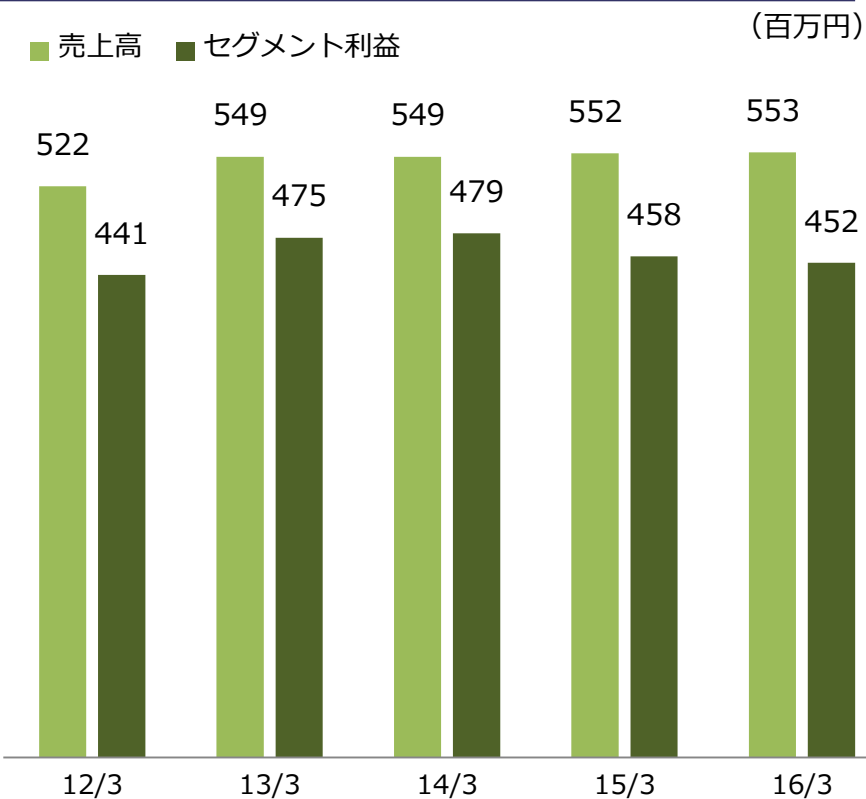
■ 保有不動産からの安定収益

保有資産の概要

名称	3号館ビル
所在	東京都品川区北品川5-11-3
土地面積	4,959.08㎡（うち62.0%）
建物構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根地下2階付8階建
建物延床面積	20,582.71㎡（うち62.0%）
竣工年月	1996年10月



不動産賃貸事業推移



-
1. 会社概要
 2. 2016年3月期決算と中期経営計画の進捗状況
 3. 2017年3月期見通し
 4. 参考資料

2016年3月期 連結損益の概況

(単位：百万円、下段は構成比)

	2015年3月期	2016年3月期			
		実績	前期比	計画 (1/27公表)	計画比
売上高	10,300 (100.0%)	8,936 (100.0%)	▲13.2%	9,000 (100.0%)	▲0.7%
売上総利益	2,123 (20.6%)	2,273 (25.4%)	+7.1%	-	-
販管費	1,525 (14.8%)	1,546 (17.3%)	+1.3%	-	-
営業利益	597 (5.8%)	727 (8.1%)	+21.8%	780 (8.7%)	▲6.7%
経常利益	720 (7.0%)	668 (7.5%)	▲7.2%	710 (7.9%)	▲5.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	629 (6.1%)	498 (5.6%)	▲20.7%	430 (4.8%)	+15.9%

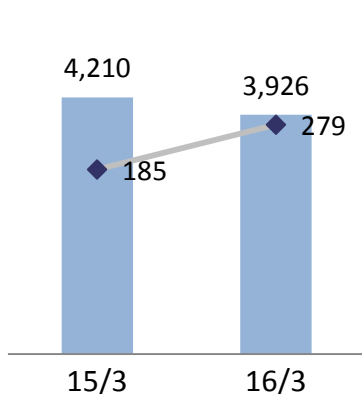
2016年3月期 セグメント別の概況

(単位：百万円)

ガス機器事業

売上高 ▲6.7%
利益 +50.4%

■ 売上高 ◆ 利益

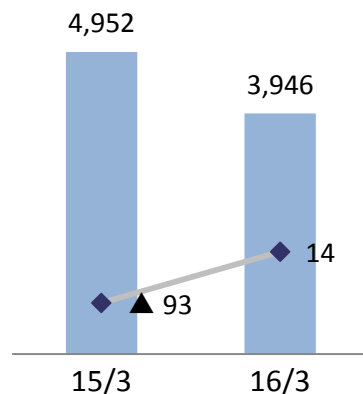


- ▶ タイは厳しい状況が続いているが、中国における公共機関向け天然ガス車向け燃料供給システムの販売が堅調
- ▶ LNG1段式レギュレータの新規生産ラインの立ち上げ、CNG1段式レギュレータの日本からの生産移管を実施
- ▶ 米国、欧州企業からの引き合いも引き続き強い

汎用機器事業

売上高 ▲20.3%
利益 黒字転換

■ 売上高 ◆ 利益

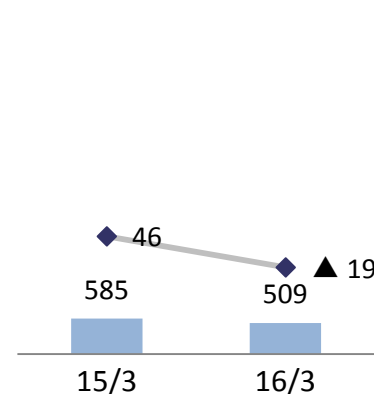


- ▶ 主力の米国の芝刈り機向け気化器の需要は底堅かったが、採算性を重視した営業方針により前期比減収となった
- ▶ 個別採算性の改善に加えて、生産性向上、コスト削減の取組が奏功し、セグメント利益は赤字から黒字転換した

自動車機器事業

売上高 ▲13.0%
利益 赤字転落

■ 売上高 ◆ 利益

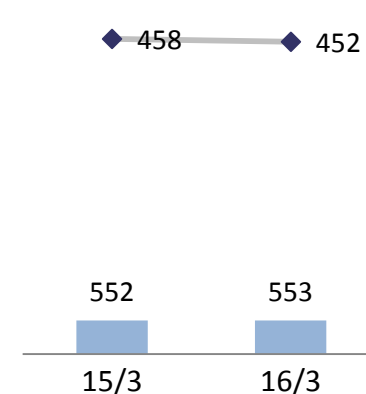


- ▶ 需要減に対応し、生産体制の見直し等を進めるも、減収により赤字となった
- ▶ 2月に受注した中国の新規ビジネスにより回復傾向にある

不動産賃貸事業

売上高 +0.2%
利益 ▲1.4%

■ 売上高 ◆ 利益



- ▶ 売上高、利益ともに概ね前期並みの水準

2016年3月期 連結貸借対照表の概況

(単位：百万円、下段は構成比)

		2015年3月期末	2016年3月期末		主な増減要因
				前期比増減額	
資産合計	流動資産	6,088 (44.1%)	6,240 (47.7%)	+151	【流動資産】 ・現金及び預金 +533 ・受取手形及び売掛金 ▲329 【固定資産】 ・投資有価証券 ▲521 ・固定資産 ▲340
	固定資産	7,718 (55.9%)	6,845 (52.3%)	▲872	
	資産合計	13,807 (100.0%)	13,085 (100.0%)	▲721	
負債・純資産合計	流動負債	4,822 (34.9%)	4,316 (33.0%)	▲506	【流動負債】 ・支払手形及び買掛金 ▲294 ・未払法人税等 ▲195 【固定負債】 ・長期借入金 ▲173 ・長期繰延税金負債 ▲135
	固定負債	2,756 (20.0%)	2,460 (18.8%)	▲296	
	負債合計	7,578 (54.9%)	6,776 (51.8%)	▲802	
	純資産合計	6,228 (45.1%)	6,309 (48.2%)	+81	
負債・純資産合計		13,807 (100.0%)	13,085 (100.0%)	▲721	・利益剰余金 +415 ・その他有価証券評価差額金 ▲246
ネット有利子負債		674 (4.9%)	46 (0.4%)	▲627	

※ネット有利子負債 = (短期借入金 + 長期借入金) - (現金及び預金)

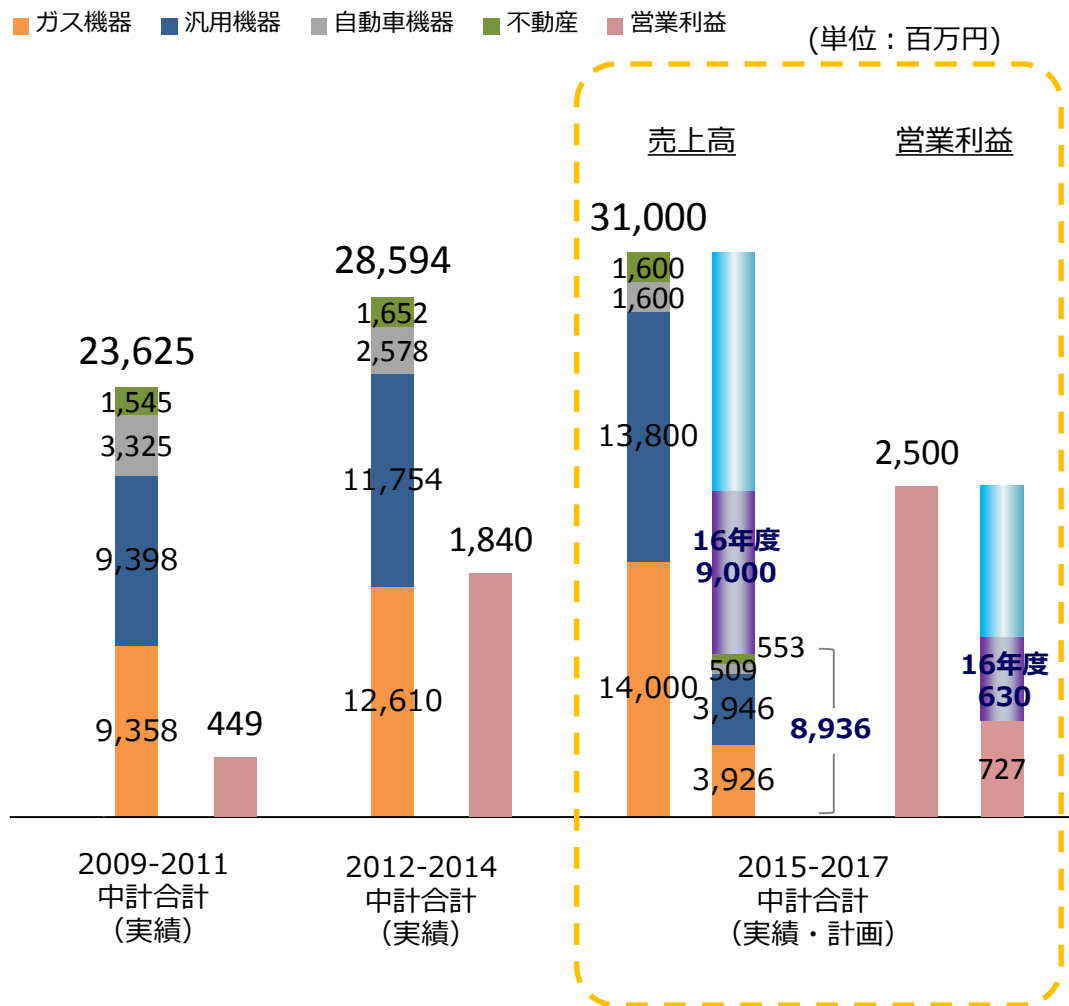
2016年3月期 連結キャッシュフローの概況

(単位：百万円)

		2015年3月期	2016年3月期	
				主な内容
営業キャッシュフロー	972	1,277	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前当期純利益 +670 ・減価償却費 +840 	
投資キャッシュフロー	▲1,277	▲609	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 ▲520 	
フリー・キャッシュフロー	▲305	667		
財務キャッシュフロー	375	▲303	<ul style="list-style-type: none"> ・長期借入金の返済による支出 ▲137 ・リース債務の返済による支出 ▲112 ・配当金の支払額 ▲93 	
換算差額等	▲135	92	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ子会社の新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加 +133 	
現金及び現金同等物の期末残高	1,821	2,277		
設備投資額	883	449		
減価償却費	839	840		

新中期経営計画（2015～2017年度）

「持続的な成長の実現」を目指して、増収・増益決算を継続できる
事業基盤・体制の構築を図る



<重点方針・施策>

1. 売上規模拡大
2. コスト低減・収益拡大
3. 事業領域・個人領域の拡大

<計数目標（連結）>

3力年合計

売上高	31,000百万円
営業利益	2,500百万円

中期経営計画の進捗状況

コスト低減や事業領域の拡大が進展

	重点方針・施策		進捗状況・その他
(1)	<p>売上規模拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 未開拓市場への参入、中国市場での拡販、後改造市場への参入 ② コア商品の拡充、差別化商品・低価格商品の開発 ③ M&Aに向けた積極的な対応 	▲	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 売上に関しては、予想を超える原油安の影響でガス機器販売苦戦。 ▷ 北米大手システムメーカーへのガス機器参入に手ごたえ（評価検討用製品納入中） ▷ 廉価版LPG/CNGキット設定によるキットバリエーション拡充に目途 ▷ 中国市場では、8月から大手エンジン製造メーカーへのLNGレギュレータの納入を開始 ▷ M&Aは引き続き積極的に検討
(2)	<p>コスト低減・収益拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ① VA/VEの徹底推進による原価低減 ② グローバル調達への推進、受入検査体制の整備・強化、トータルコストの低減化 ③ 多品種少量生産への対応、設備の共通化、減価償却費の削減 ④ 工程レス化・部品レス化への取り組み 	○	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 品質を確保した上での海外拠点の現地調達を進め、世界最適調達を推進 ▷ ラインの統廃合や段取り改善への取り組みにより、多品種少量生産体制を構築
(3)	<p>事業領域・個人領域の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 開発・実験機能の拡充、上流工程への関与の強化・拡大 ② 受託実験業務への対応強化 ③ グローバル展開に対応できる人材の育成 	○	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 開発・実験業務がエンジン全体及び車両全体へと領域拡大 ▷ 当初想定以上の受託実験のニーズがあり、その対応が今後の課題

『ニッキフィロソフィ』の策定

ニッキグループのメンバー全員が、あらゆる行動の基本として、大事に思い追求していく考え方として、ニッキフィロソフィを定めました。

1. 多様化するエネルギー資源の有効活用に役立ち、環境保全に寄与する燃料供給システムの開発・製造を行い、社会に貢献する。
2. 品質、性能、価格の基準だけでなく、プラスアルファの付加価値を増強する。
グローバルなステージでのお客様や市場との率直な対話、コミュニケーションの実践と深化を通じて、商品・サービスに新たな価値を付与する。
3. 勉強しよう、成長しよう。
たゆまぬ挑戦を継続実践し、事業活動を通じて一人一人が成長し、共に成果を確かめ合い、充実感を味わおう。

-
1. 会社概要
 2. 2016年3月期決算と中期経営計画の進捗状況
 - 3. 2017年3月期見通し**
 4. 参考資料

2017年3月期 連結損益の見通し

為替相場の円高ドル安進行の影響等により、前期比微増収ながら減益を見込む

(単位：百万円)

	2016年3月期実績		2017年3月期計画		
		構成比		構成比	前期比
売上高	8,936	100.0%	9,000	100.0%	+0.7%
営業利益	727	8.1%	630	7.0%	▲13.4%
経常利益	668	7.5%	620	6.9%	▲7.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	498	5.6%	410	4.6%	▲17.8%
設備投資額	449	5.0%	470	5.2%	+4.5%
減価償却費	840	9.4%	770	8.6%	▲8.4%

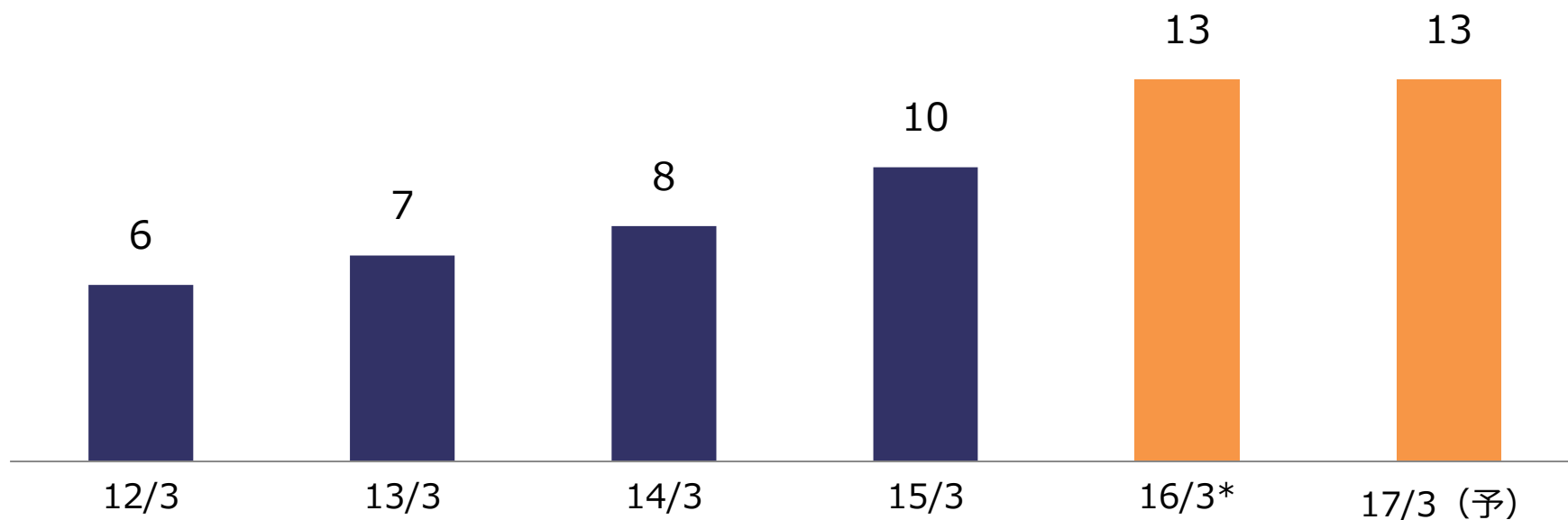
- ☑ 北米、ロシア、中央アジア、更にイラン市場への新規参入
- ☑ 中国市場でのガス機器の更なる拡販
⇒エンジン製造メーカー大手4社のうち、3社と取引開始
残り1社とも最終調整中
- ☑ 廉価版LPG/CNGキット設定による後改造キット拡販
- ☑ フォークリフト関連のLPG/CNG後改造対応の推進
- ☑ 受託開発案件への積極的な対応

株主還元方針

- ・ 安定配当をベースに業績及び経営環境等を総合的に加味した配当の継続を基本方針とし、2017年3月期は13円を計画
- ・ 資本効率の向上を勘案し、自己株式の取得等についても弾力的に検討
- ・ 配当性向：当面、連結ベースで30%を目標とする

1株当たり配当金推移

(単位：円)



*：2016年6月29日の株主総会付議予定

1. 会社概要
2. 2016年3月期決算と中期経営計画の進捗状況
3. 2017年3月期見通し
4. 参考資料

Point1

開発・実験機能の拡充を行い、上流工程への関与拡大

Point2

ガス機器の北米、ロシア、中央アジア、イラン市場への参入

Point3

新興国向け後改造用廉価製品の開発推進

Point4

グローバルな最適生産体制の追求

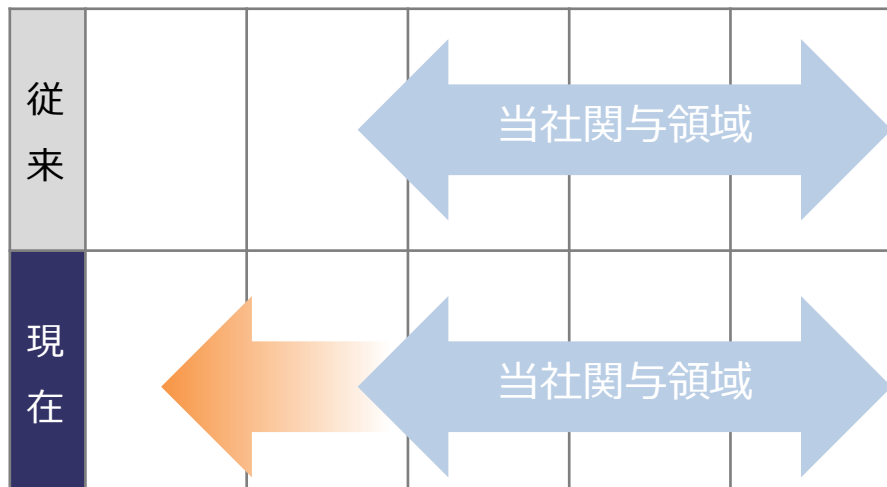
持続的成長に向けた重点施策 (1)

【ガス機器事業】

- 開発・実験機能の拡充を行い、上流工程への関与を拡大
- ガス機器の北米、ロシア、中央アジア、イラン市場への参入

【ガス機器】技術力を生かし、より上流工程へ関与していく

自動車・トラックメーカーの開発工程



【ガス機器】北米・ロシア・中央アジア、イランへの参入

- 米国子会社NIKKI AMERICA,INC.の機能拡大・体制強化
- 地域や顧客ニーズに応じた最適なアプローチ方法を検討
- Act* Expo 2016@Los Angeles,Long Beach)へ継続出展



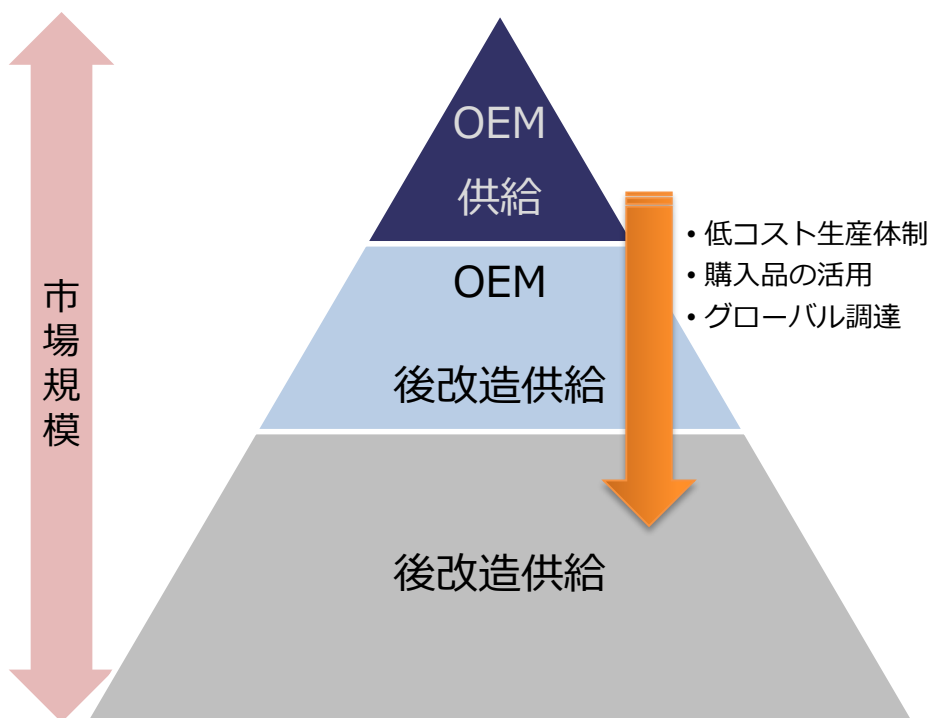
*Act: Advanced Clean Transportation

持続的成長に向けた重点施策 (2)

【ガス機器事業】

- 市場の大きい新興国向けCNG車用廉価製品（後改造供給用）の開発を推進
 - 低コスト生産体制、購入品の活用、グローバル調達によりコストパフォーマンスの極大化

【ガス機器】後改造供給用製品の品ぞろえ拡充



OEM供給：

- 自動車メーカーの生産ライン用として製品の販売を行う
- 正規ラインナップとして設定

OEM後改造供給：

- 自動車メーカーの監修した改造車用の製品販売を行う
- 正規販売店オプションとして設定

後改造供給：

- 一般修理工場（改造専門業者含）向けの改造車用の製品販売を行う
- 車両はユーザーが持込み改造を施す

持続的成長に向けた重点施策 (3)

- グローバルな最適生産体制の追求
 - 生産拠点の最適化
- インド生産拠点のみならず、販売拠点への位置づけを追加

グローバルな最適生産体制

- 生産拠点の最適化

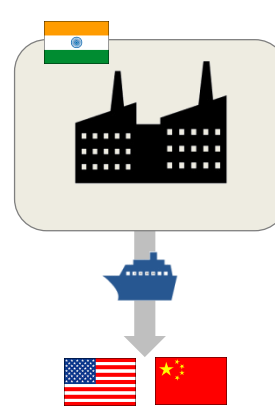


- コスト要件に合致した製造方法の確立
- 加工、組立などプロセスベースの最適化
- ガス機器事業進出への布石

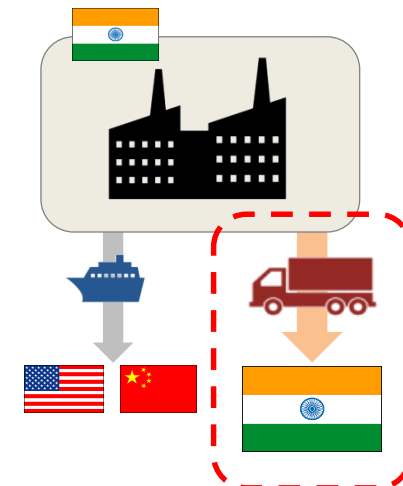
インドビジネスの質の転換（販売拠点としての位置づけを追加）

- 内製化を進めていたインドにおけるダイカスト事業を更に進展させ、インド国内で現地企業向けの外販を開始

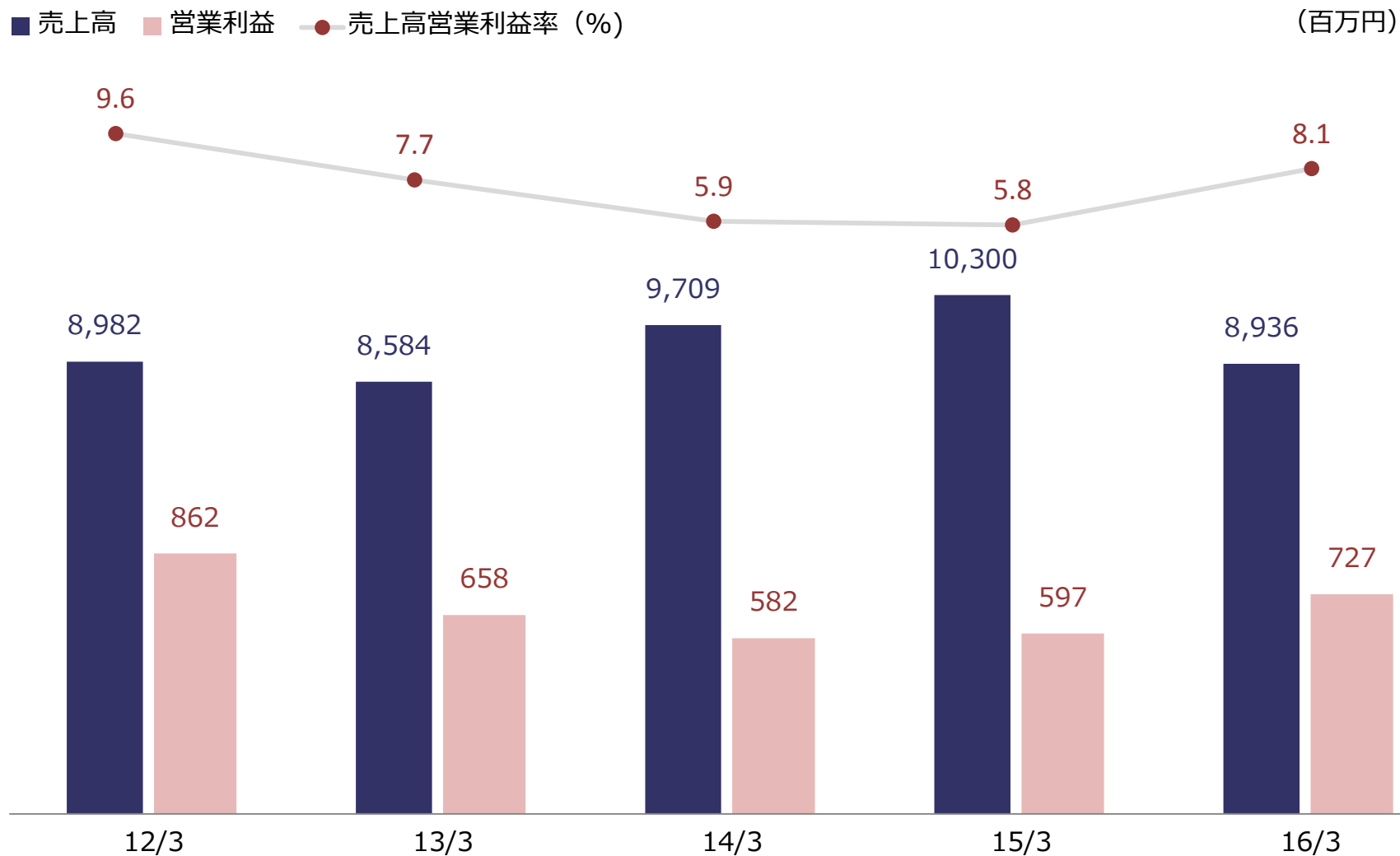
▼これまで



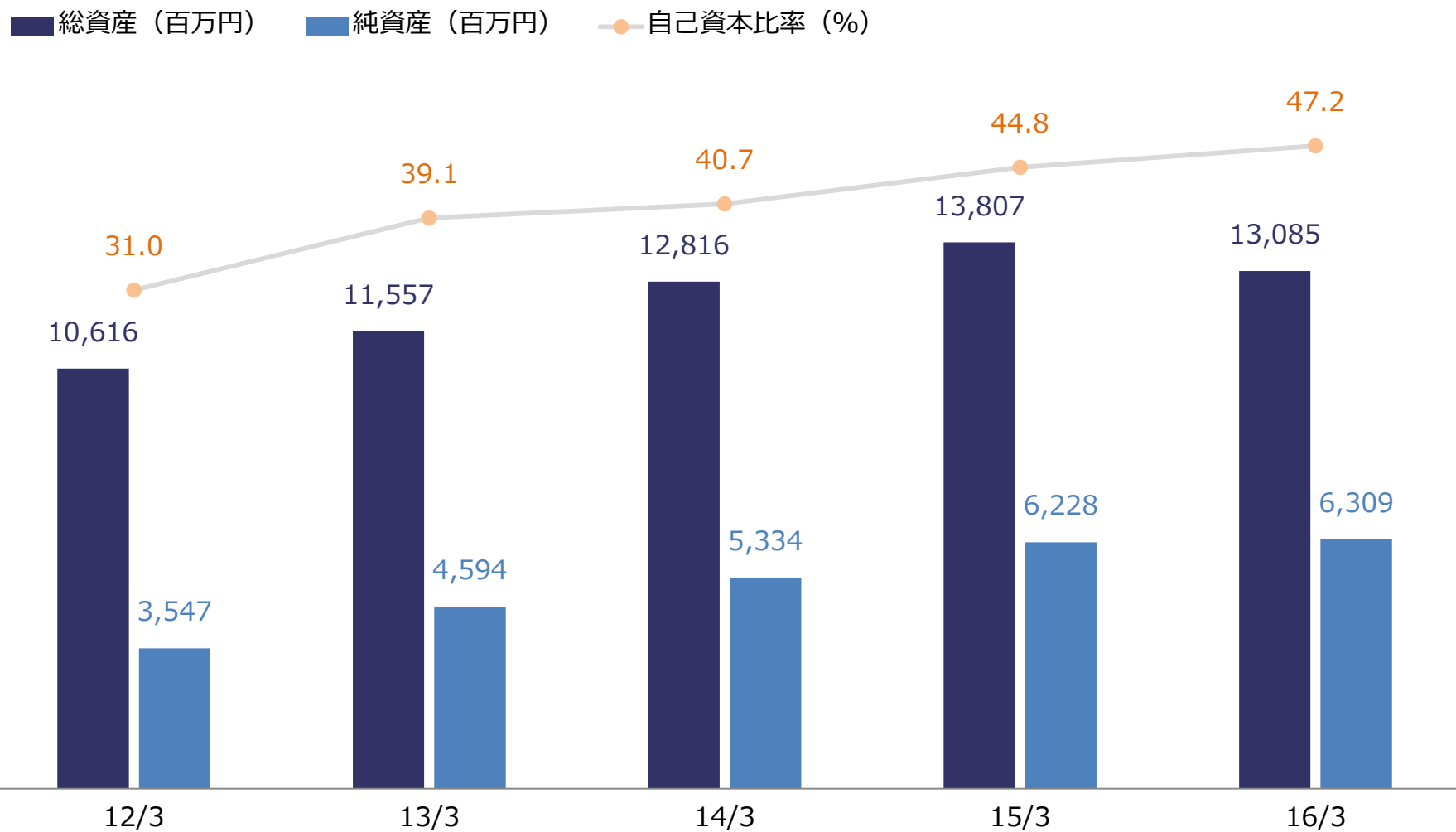
▼現在



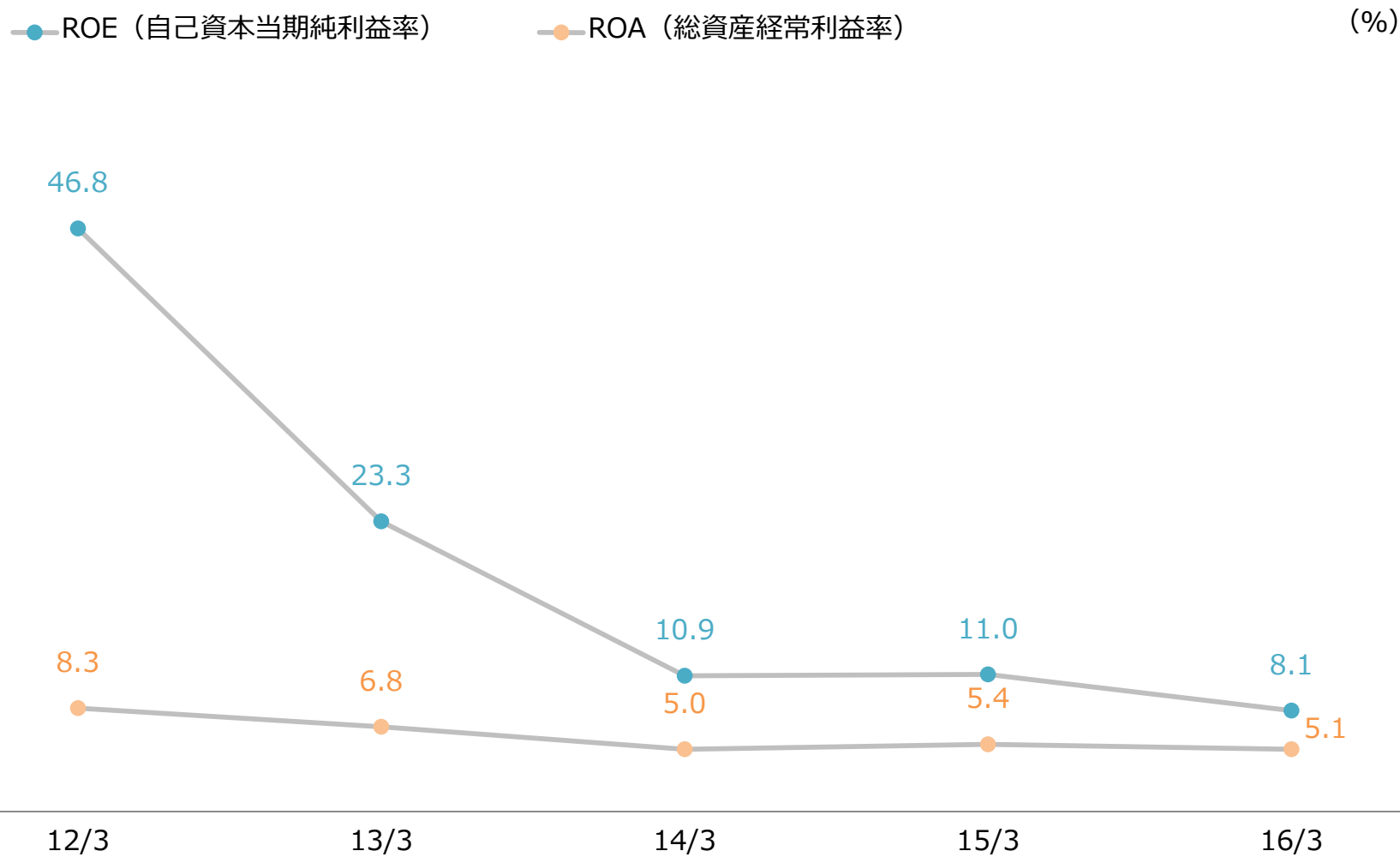
連結業績推移 (1)



連結業績推移 (2)



連結業績推移 (3)

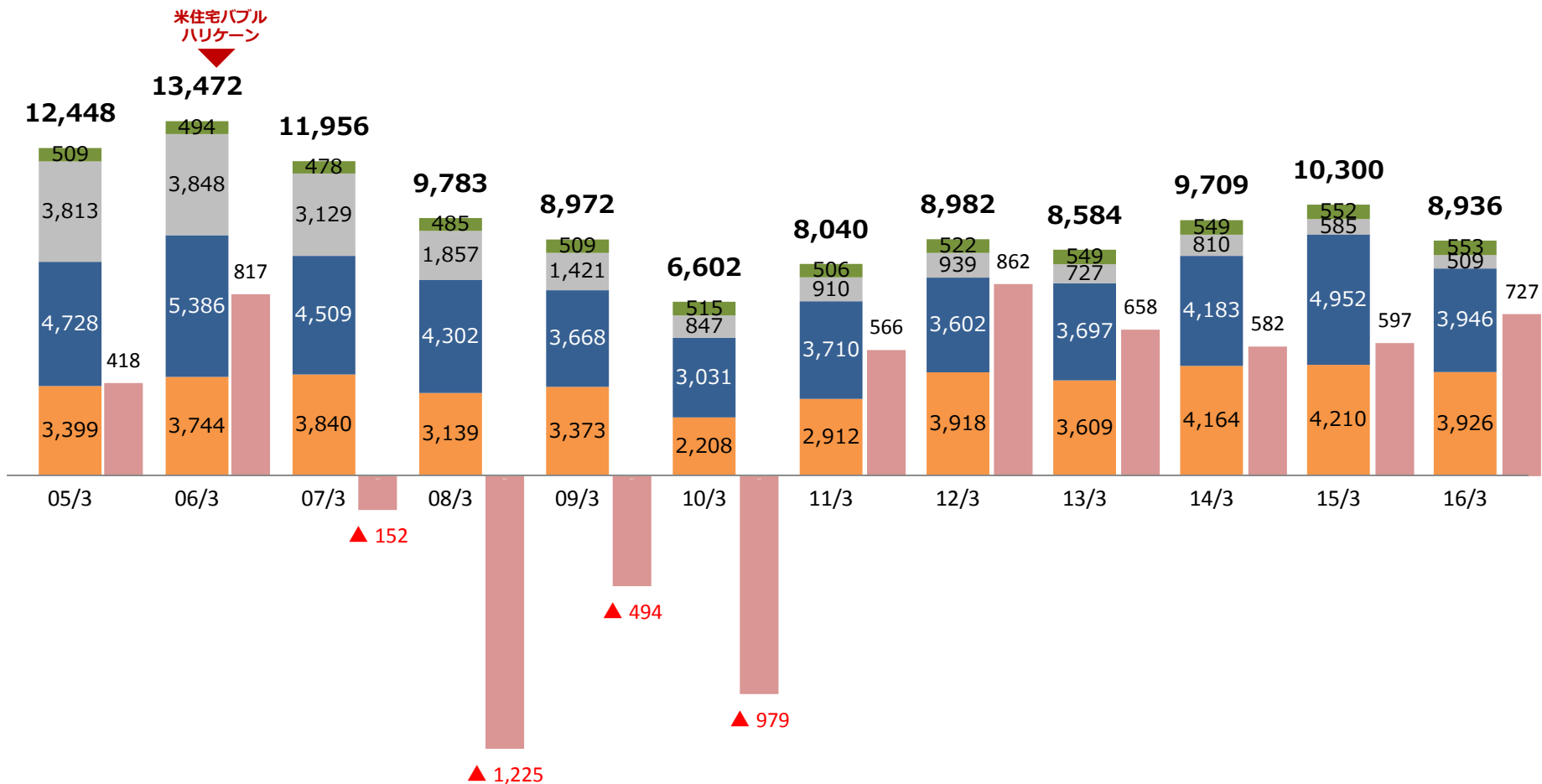


セグメント別外部売上高、連結営業利益推移

市場拡大が見込まれるガス機器事業に注力、筋肉質な事業構造へと変化

■ ガス機器事業
 ■ 汎用機器事業
 ■ 自動車機器事業
 ■ 不動産賃貸事業
 ■ 営業利益

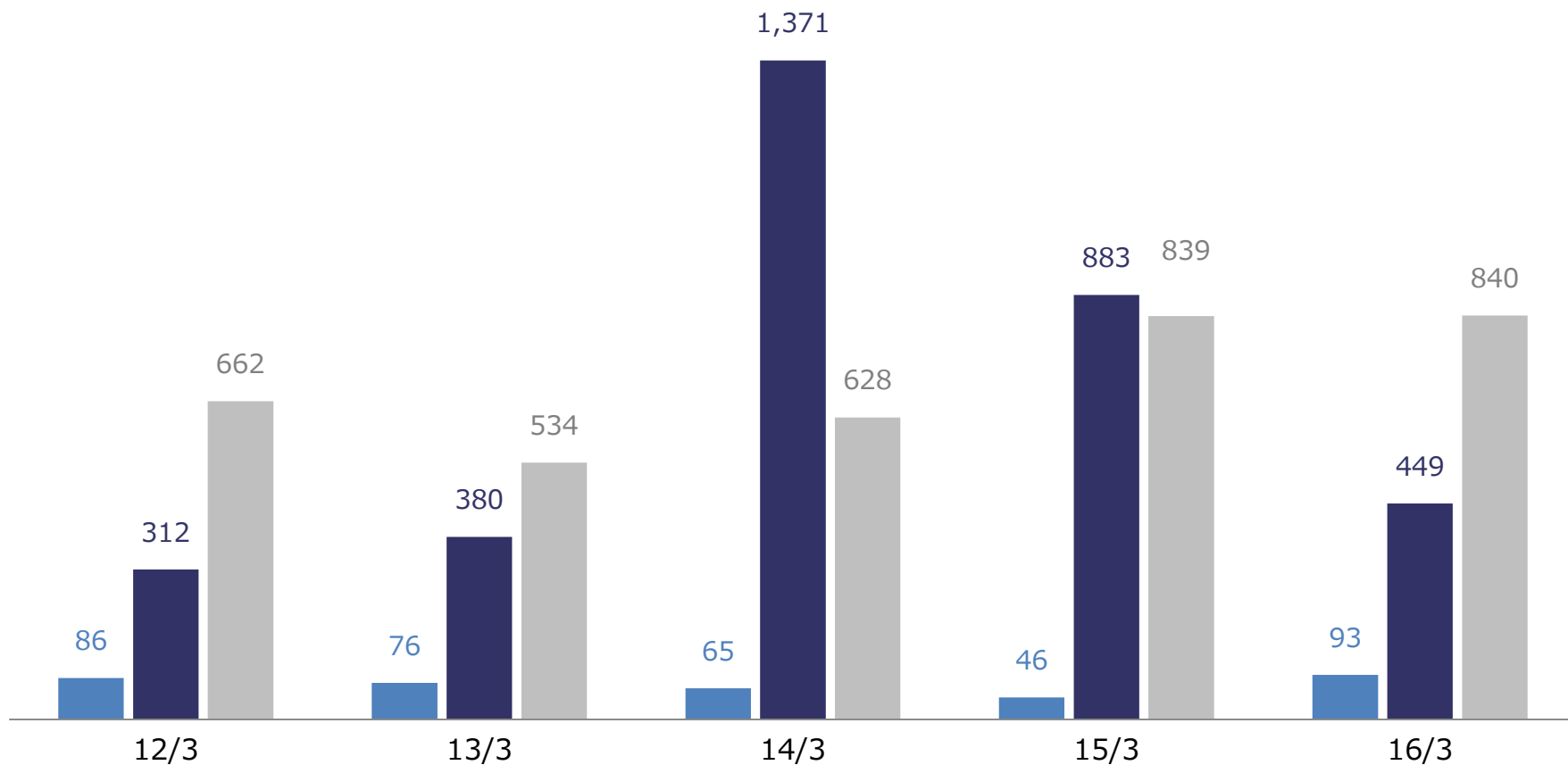
(百万円)



研究開発費・設備投資額・減価償却費の推移

■ 研究開発費 ■ 設備投資額 ■ 減価償却費

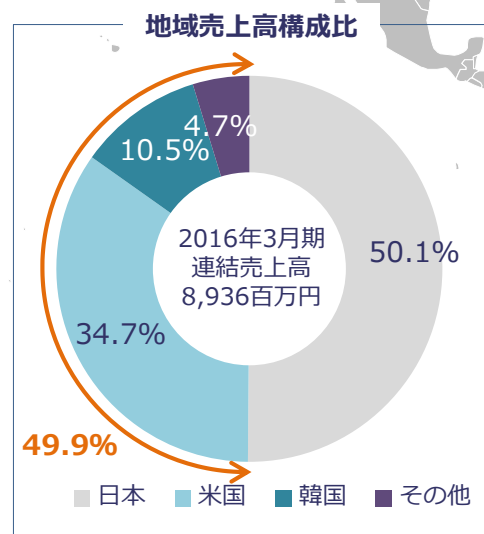
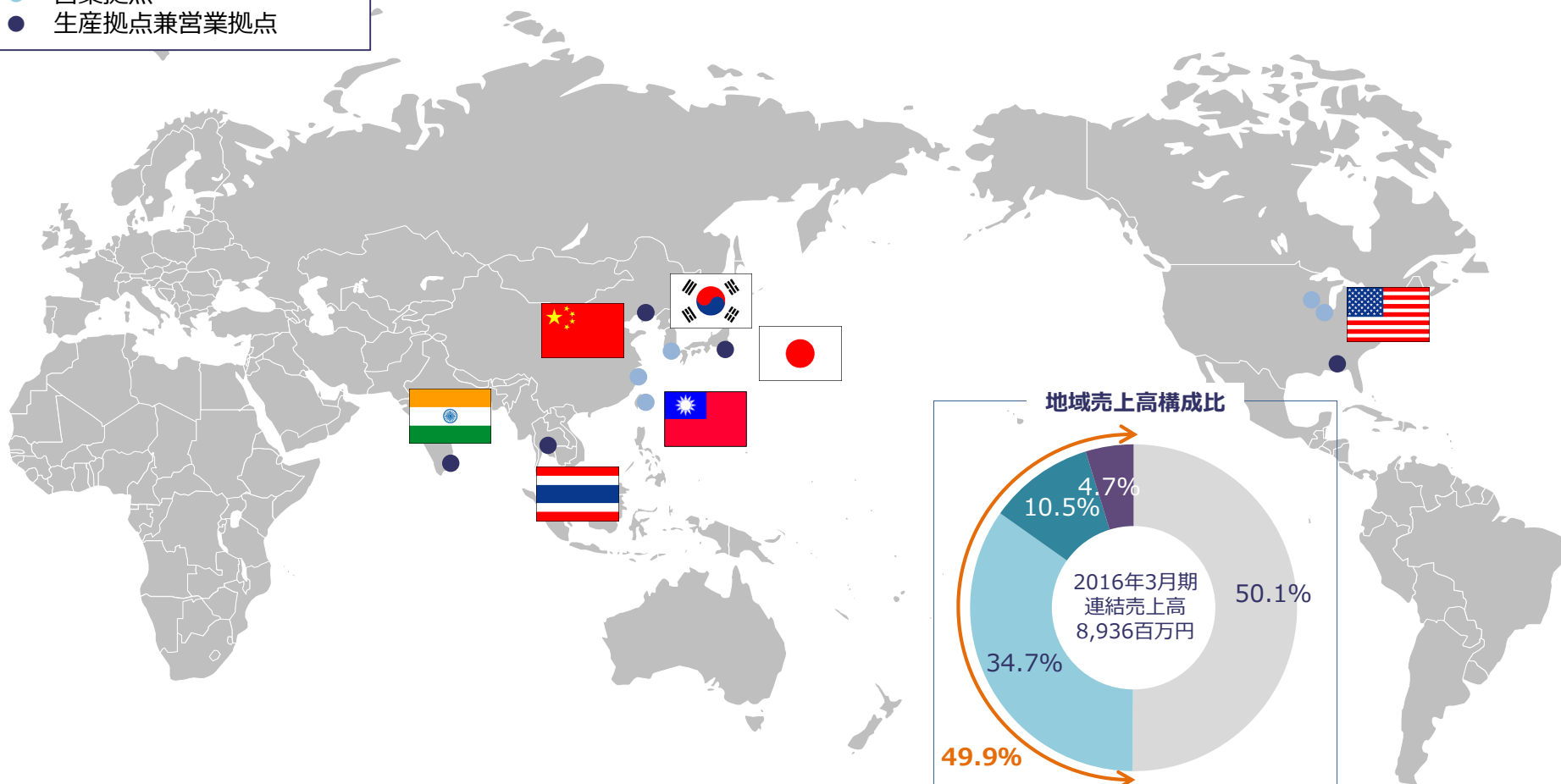
(百万円)



グローバルネットワーク

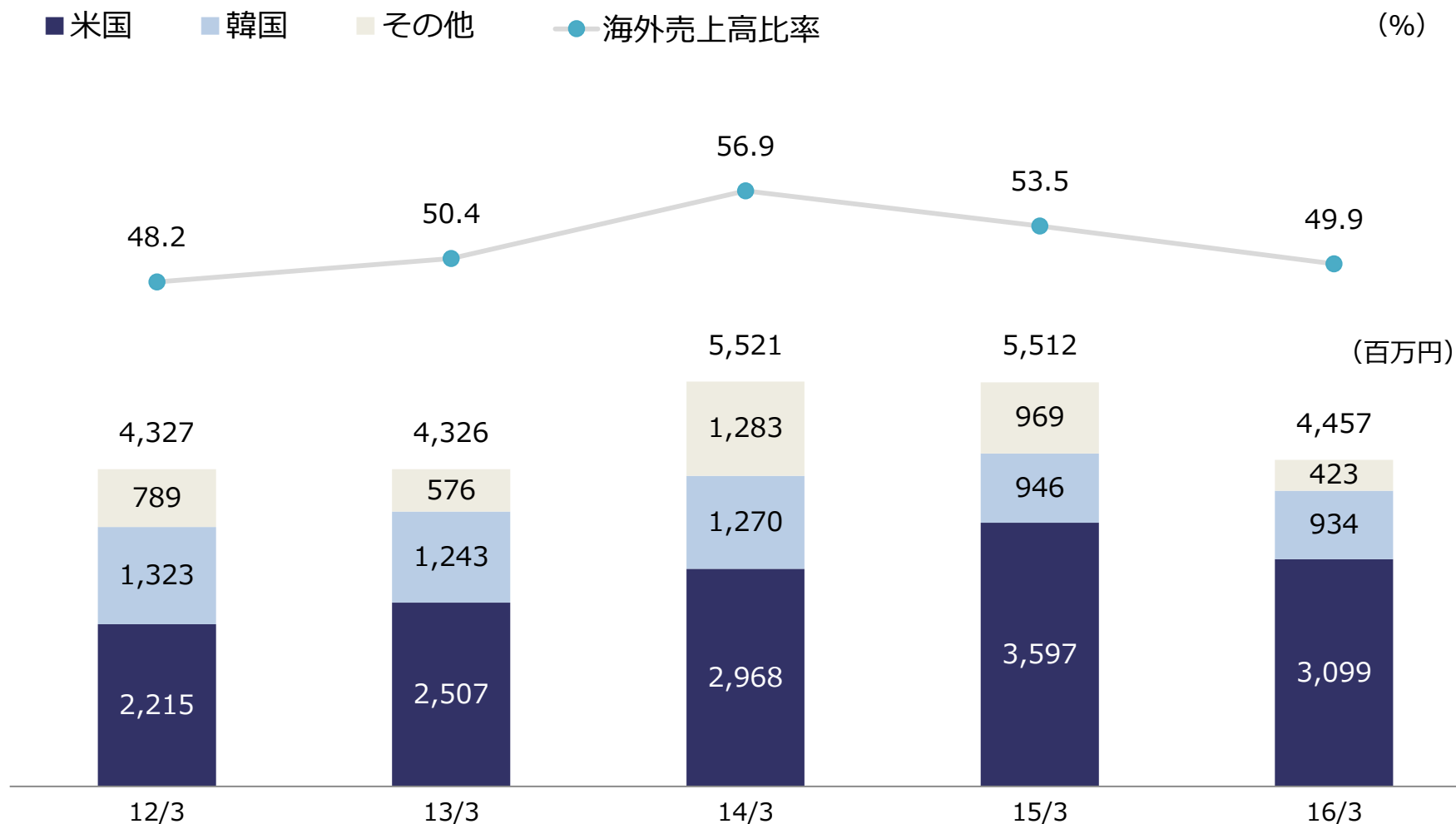
世界6カ国に拠点を設ける。海外売上高比率は49.9%（2016年3月期）

- 営業拠点
- 生産拠点兼営業拠点



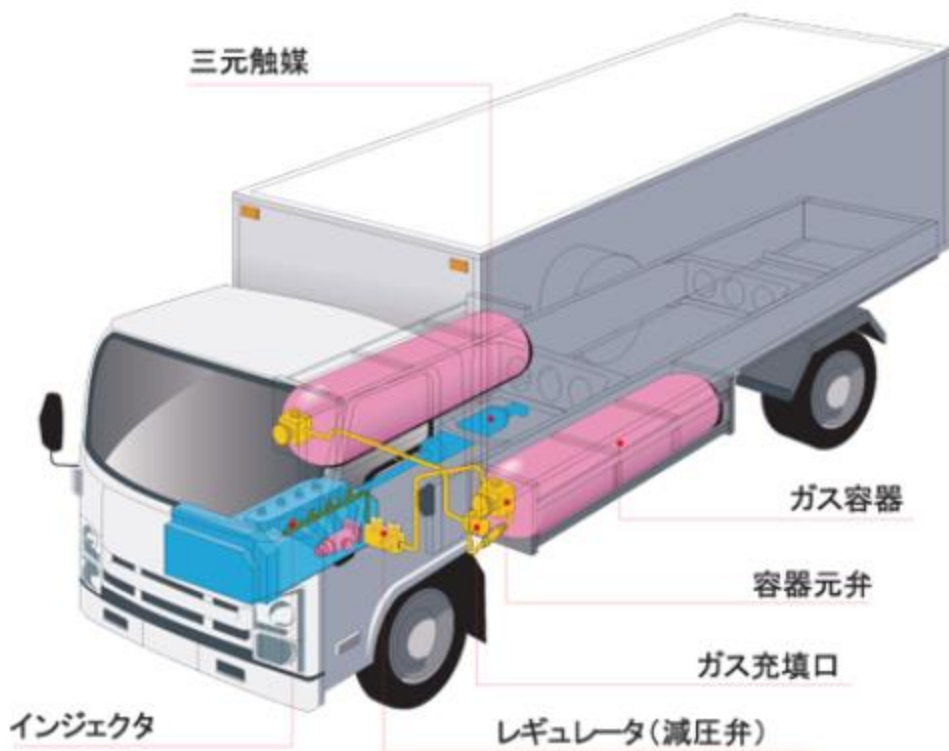
海外売上高推移

主要なマーケットは国内から海外へ



(ご参考) 天然ガス自動車の構造と特徴

天然ガス自動車（CNG車）の構造（トラック）



出所：日本ガス協会

	利点	欠点
CNG/LNG車	<ul style="list-style-type: none"> 燃料費が割安 環境負荷が小さい パワーが強い LNG車はCNG比で航続距離が長い 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料充填施設が限られる 車両価格がやや高め
HV/EV車	<ul style="list-style-type: none"> モーター駆動時は環境負荷が最も小さい 	<ul style="list-style-type: none"> パワーに制限あり 充電施設が限られる
ディーゼル車	<ul style="list-style-type: none"> 給油場所は十分にある パワーが強い 車両価格が安い 	<ul style="list-style-type: none"> 窒素酸化物などを排出

CNG (Compressed Natural Gas) 車：

天然ガスを気体のまま、高圧 (20MPa) でガス容器に貯蔵する車両

LNG (Liquefied Natural Gas) 車：

天然ガスを液体状態 (-162℃) で、超低温容器に貯蔵する車両

(ご参考) 当社を取り巻く環境

拡大する市場に的確に対応し、持続的成長を実現する

事業	種類	特徴
ガス機器事業	大型/トラックバス	<ul style="list-style-type: none">■ 市場は拡大傾向■ OEM中心で高価格■ 技術的要求水準が高く、参入障壁が高い
	中小型/乗用車	<ul style="list-style-type: none">■ 市場拡大が続くが、国、地域によって価格と種類がまちまち■ 低価格品が主流■ OEMも増えつつある
汎用機器事業	キャブレター	<ul style="list-style-type: none">■ 市場は緩やかに拡大■ 米国中心のマーケット■ 中国製品との競争が激化
	燃料噴射装置	<ul style="list-style-type: none">■ 今後、市場規模の拡大が見込まれる

(ご参考) 日本国内でLNGトラック導入を促す動き

背景

- 地球環境への配慮
 - CO₂の排出量削減
 - 大気汚染の原因物質（NO_xやPXなど）の排出削減
- エネルギーリスクの分散
 - エネルギー供給源の多様化（運輸部門の約98%が石油に依存）
 - 調達先の分散（複数の国から輸入）
- シェールガスの生産拡大による可採年数の拡大・価格の安定化
 - 2017年より米国から輸入開始予定

国の政策

- 総合物流施策大綱（2013-2017）2013年6月 国交省・経産省
 - 「物流分野における主要なCO₂排出源であるトラックをはじめ、船舶、鉄道等各輸送モードの省エネ化、低公害化、天然ガス等へのエネルギー転換を促進する」
- 国土強靱化政策大綱 2013年12月 国土強靱化推進本部（内閣官房国土強靱化推進室）
 - 「エネルギーセキュリティの推進（CNG車両等の普及）（中略）を図る」

- 本資料は株式会社ニッキ（以下、当社）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- また、経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社ニッキ 総務部経理課

TEL : 046-285-0228 / E-mail : ir@nikkinet.co.jp